

◆ 課程を有する学科等の教員養成に対する理念・教員像

● 経営学部経営学科（高一種免（情報））

経営学部は、起業、ビジネス情報、会計・税務、流通販売を4つの柱とする実務指向の学びを実践している。「情報」教育の目標には、①情報活用の実践力、②情報の科学的理解、③情報社会に参画する態度、の3つの視点があるが、情報社会の現実をよく知ろうとすれば、ビジネスの企画から取引、経営管理に至るまで、社会全般の情報化と結びついていることを理解する必要がある。経営学部の学びはその土台を構築する。経営学部の教科「情報」の専門科目はそのような考えに基づき、情報技術の基礎知識を必須としつつ、それと併せて情報化する現代社会の実態を詳しく学べる科目を積極的に組み込むことで、情報社会を豊かに語ることのできる教師の育成を目指している。

● 経営学部経営学科（高一種免（商業））

経営学部は、起業、ビジネス情報、会計・税務、流通・販売を4つの柱とする実務指向の学びを実践している。経済社会において商業が果たす機能を学ぶために体系立てたこの4つの柱は、「『生きる力』という生涯学習の基礎的な資質の育成」、「経済社会の変化に柔軟に対応できる能力の育成」および「ビジネスの基礎・基本の能力の育成」の商業教育の3つのねらいそのものである。経営学部の教科「商業」の専門科目はこの考えに基づき、豊かな人間性と創造性を培うために資するよう適切な年次に配当されている。また、現代の商業取引は国境を越えておこなわれることも珍しくはない。経営学部では積極的に外国人留学生を受け入れていることから、豊かな国際交流能力を有する教員の養成を目指している。

● 法学部ビジネス法学科（中一種免（社会）・高一種免（公民））

「社会生活に不可欠な基礎学力を身につけ、法学の骨格・基本を確実に修得したうえで、豊かな人間性と幅広い視野をもって総合的に社会現象を把握し、主体的に課題を探究して、問題を解決できる能力を持つ人材の育成」を目的としている。また、この目的を達するため、「法学を通して時代の要請に応える人材を養成すること」および「個々人が生きていく力を自らに『養う』こと」の2つを基本的な教育目標に掲げ、学生が社会生活に不可欠な基礎学力を身につけ、法学の基本を確実に修得したうえで豊かな人間性と幅広い視野を育てること、そして、そのようにして培われた人間性によって総合的に社会現象を把握し、自ら課題を探究して問題を解決できる能力を獲得することを教育の目標としている。このように、法学部ビジネス法学科では、いわゆる「教養」および「経済学・経営学・法学」の基礎知識をはじめとする「社会生活に不可欠な基礎学力」を身につけ、現代社会における課題を主体的に探究し解決できる能力や教職に関する知識を修得する。また、1年次から4年次に配置するゼミナール（演習）を通して「自ら課題を探究して問題を解決できる能力」やコミュニケーション能力を育成する。これらの過程を通じて、現代社会における課題を主体的に探究し解決できる能力とともに、教職に関する知識の育成を行い、優れた社会科教育および公民科教育を実践できる中等教育教員の養成を行う。

● 人間生活科学部教育保育学科（幼一種免・小一種免）

第一に、子どもを取り巻く変化の著しい時代の要請に応え、子どもの生活状況や発達を考慮しつつ子どもの経験を豊かにし、健全な成長へと導く実践力を備え、養護と教育の一体的な営みとしての教育・保育（「エデュケア」）を核とした地域連帯の公共的空間の回復を目指す幼稚園教諭、第二に、子どもの学ぶ意欲や気力体力の低下・いじめ・不登校といった教育の現代的課題、発達障がい児への適切な援助といった新たな学校教育の課題に対応するため、乳幼児期からの子どもの発達間を軸にして、子どもの健全な育成や確かな学力を培う教育の実現に寄与する小学校教諭の育成を理念としている。

● 人間生活科学部管理栄養学科（栄一種免）

管理栄養学科では、食と栄養に関する専門知識と技能を持った管理栄養士を育成することを教育目標としている。栄養教諭は、教育に関する資質と栄養に関する専門性を併せ持つ教員である。そこで、食に関する指導と学校給食管理を一体のもととして、食育を進める実践的な力を身に付けた栄養教諭を育成していくことを目指している。さらに、犬山市教育委員会との連携により、学校給食の実際に触れる体験を積極的に取り入れ、コミュニケーションスキルの育成にも努めている。